

令和2年度 第3回 沖縄観光2次交通の利便性向上に向けた検討委員会

動的データ整備（遅延情報含む検索） に関する実証実験の実施結果

令和3年3月17日

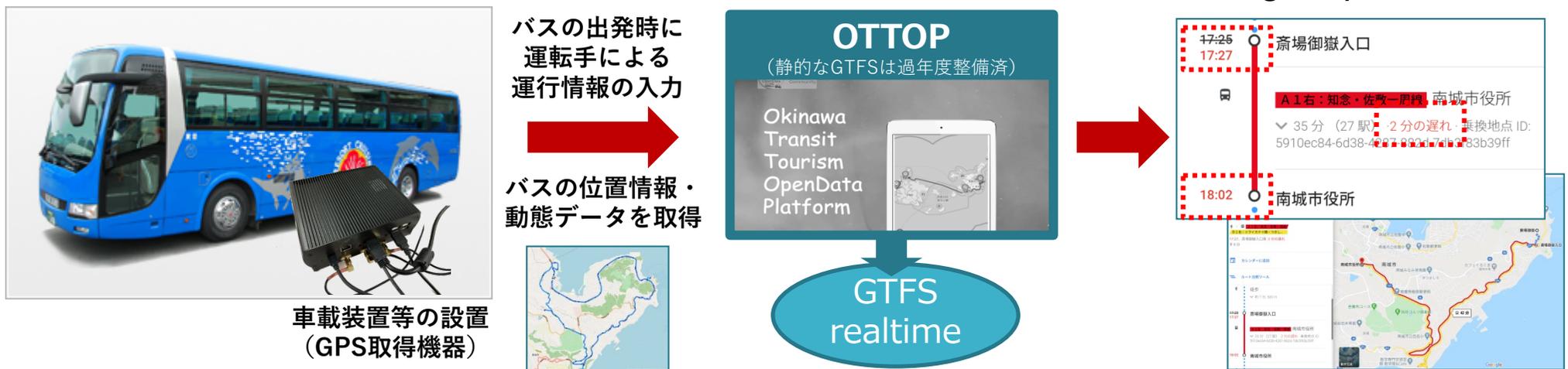
1. 実施概要

◆主に空港を発着する観光客の利用が多い路線バス（観光系路線バス、5事業者、計46台）において、OTTOP（Okinawa Transit Tourism OpenData Platform）を活用し、動的データ整備（リアルタイムの運行情報提供）に関する実証実験を実施。

【対象とした観光系路線バスの概況】

会社名	路線・便数(通常時)	今回対象とする車両の台数
沖縄エアポートシャトル	那覇空港～恩納～美ら海水族館(往復22便)	14
やんばる急行	那覇空港～運天港(往復26便)	3
カリー観光	那覇空港～パルコシティ～北谷(往復16便)	7
	那覇空港～北谷～美ら海(往復2便)	
	おもろまち駅～パルコシティ(往復16便)	
	那覇空港～イーアス豊崎	
沖縄バス(空港リムジン)	那覇空港～各リゾートホテル8路線(往復50便)	13
東京バス	糸満市役所～空港経由～沖縄県庁(往復13便)	9
	那覇空港～瀬長島～イーアス豊崎(往復37便)	
計		46

【取組イメージ】



2. 具体的な手法

- ◆バス車内に車載機器として、GPS取得機器、入力用のタブレット等を設置。
- ◆ドライバーは出発前にタブレット画面にて、出発便（路線、時刻）の指定を行う。
- ◆GPS取得機器から取得したバスの位置情報データを、OTTOPにおいて、GTFS-RT形式でオープンデータとして提供を行う。
- ◆Googleについては、OTTOPを運営する一般社団法人沖縄オープンラボラトリより、GTFS-RTのフィードを行う。

【車内に設置する主な機器について】

- ・車載コンピュータ



- ・乗務員用モニター
(大きさ：7インチ)

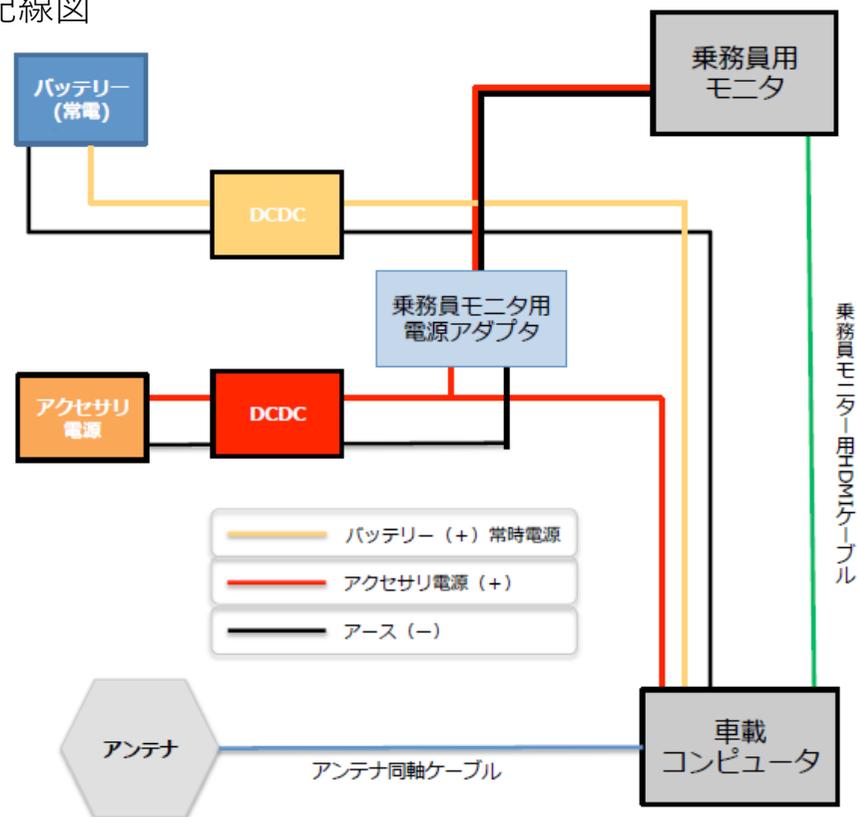


- ・アンテナ



- ・DC-DC降圧電源
(24V-12V)

- ・配線図

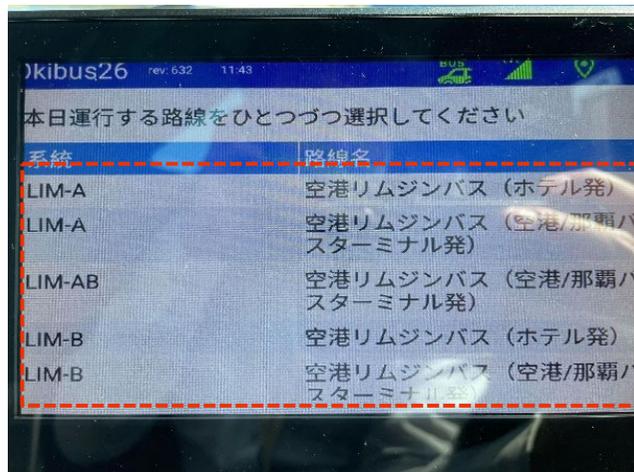


2. 具体的な手法

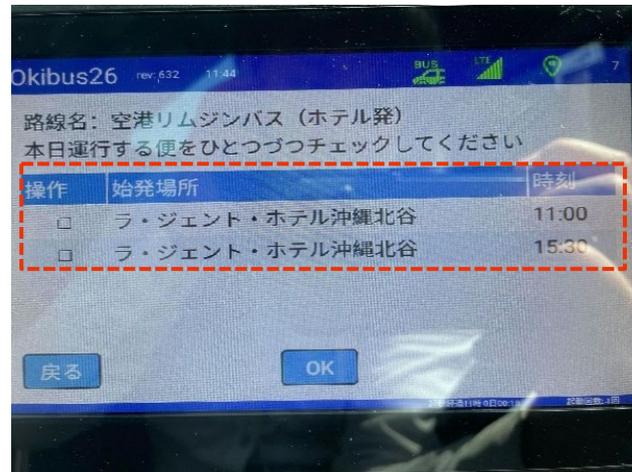
【運転手による運行情報（出発便）の入力について】

- ①運行する系統名・路線名を選択 ※系統名・路線名の情報はOTTOFのデータを活用
- ②次に、運行する便を選択（始発場所、始発時刻を確認し選択） ※便（始発場所、始発時刻）の情報はOTTOFのデータを活用
- ③入力した便以外に、連続して別の便を運行する場合には、「別の路線を追加する」を押して、上記①②を繰り返す。追加する便がなければ「完了」を押して終了。

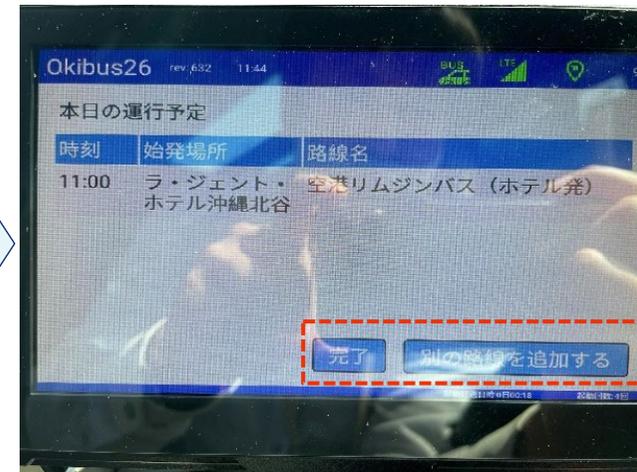
①系統名・路線名を選択



②運行する便を選択



③別の路線の追加もしくは完了



3. 現時点のステイタスと実証の継続予定

◆現状として、設置した車載機器からデータが安定的に取得できるか、機器の安定稼働、ドライバーの機器入力等について最終確認している段階。

◆年度内にOTTOPでの（試験）公開、Google Mapsへのフィードを開始。

⇒Google Mapsで遅延情報を含む検索ができるようになるのは4月以降となる。

⇒このような状況を踏まえ、年内（R3年12月まで）は、関係者の協力のもと、利便性やサービスの安定性の検証等のため、実証を継続する（R4年以降は、自走化の方向性を検討）

【動的データ整備前後の経路検索結果の例】

▼現状の経路検索の結果（動的データ整備前）



▼動的データ整備後の経路検索の結果

